

# 形容名詞性的動詞由來複合語的擴張用法及其 機制

## —形容名詞の下位分類の提案—

葉 秉杰\*

### 中文摘要

本論文針對了「窯焼き(のピザ)」這樣的動詞由來複合詞進行了考察。先行研究認為這樣的動詞由來複合詞屬於形容名詞。但本論文觀察到這些形容名詞有作為動名詞的衍生用法，並找出了具有這種衍生用法的形容名詞的特徵。具體來說共有三點：一、這些形容名詞用來修飾被修飾語是如何產出的。二、詞彙架構可分析成「工具-V」或是「方式-V」、「時間-V」。三、語意接近役使變化動詞。此外，先行研究僅指出動名詞有往形容名詞、普通名詞方向衍生的現象，但經本論文的考察發現，形容名詞也會往動名詞衍生。最後，本論文主張這些可轉為動名詞用的形容名詞應該可以再做次分類。

關鍵詞：動詞由來複合詞 形容名詞 役使變化動詞 逆構詞 動作性形容名詞

---

\*國立政治大學日本語文學系助理教授

# **The Derivation and Its Mechanism of Adjectival Nouns in Japanese Deverbal Compounds: A Proposal of Sub-Categorization of Adjectival Nouns**

YEH, Ping-Chieh\*

## **Abstract**

Some of deverbal compounds in prior research are considered as adjectival nouns, but some of them can be used as verbal nouns, such as *kamayaki*. The purpose of the research is to clarify in which conditions adjectival nouns can be used as verbal nouns, and the mechanism of derivation of adjectival nouns. Under the following condition, an adjectival noun is used as a verbal noun. First, the adjectival nouns modify agentive role of the modified noun. Second, the adjectival nouns can be categorized into manner-verb, tool-verb, or time-verb. Third, the meanings of adjectival nouns resemble to change of state verbs. In previous research, it is considered that the derivation of verbal nouns, adjectival nouns and nouns is one direction. But it is proposed that verbal nouns can be also derived from adjectival nouns. Moreover, it is discovered that adjectival nouns and verbal nouns are on a continuum rather than a dichotomy.

Keywords: deverbal compound, adjectival noun, change of state verb, back-formation, verbal adjective

---

\* Assistant professor, Department of Japanese, National Chengchi University.

# 形容名詞的動詞由来複合語に見る拡張用法及 びそのメカニズム —形容名詞の下位分類の提案—

葉 秉杰\*

## 要旨

本稿では、「窯焼き（のピザ）」のような先行研究では形容名詞として扱われている動詞由来複合語の動名詞の派生用法について考察を行い、動名詞の派生用法のある形容名詞の特徴を明らかにした。具体的には一、被修飾語のクオリア構造の産出的役割を修飾する。二、語構成が「道具-V」または「様態-V」、「時間-V」と分析できる。三、意味が使役変化動詞に近い。また、先行研究では動名詞から形容名詞、普通名詞のように一方向的な派生だけと考えられてきたが、本稿の考察によって、形容名詞から動名詞への派生も示唆される。最後に、動名詞としても用いられる形容名詞は形容名詞の下位分類として再分類できると主張する。

キーワード：動詞由来複合語 形容名詞 使役変化動詞 逆形成 動作性形容名詞

---

\* 国立政治大学日本語文学系助理教授

# 形容名詞的動詞由来複合語に見る拡張用法及びそのメカニズム —形容名詞の下位分類の提案—

葉 秉杰

## 1. はじめに

「X + 動詞連用形」からなる日本語の動詞由来複合語 (deverbal compound) は従来複合名詞として扱われてきた (西尾 1988 など) ように、形態的には名詞であるが、その機能によって、普通名詞、形容名詞 (的)<sup>1</sup>、動名詞と三種類に分けられている ((1) ~ (3) の例及び分類は影山 1999、杉岡 2002、由本 2009a、2009b、葉 2012 によるものである)。

- (1) 名詞：山登り、金持ち、爪切り、ゴミ捨て、草むしり、しりとり、輪投げ、缶けり、輪投げ、玉入れ、ババ抜き、暇つぶし...
- (2) 形容名詞：大学出の野球選手、親譲りの無鉄砲、手編みのセーター、炭焼の肉、薄切りのパン、レンガ作りの倉庫、毒入りの饅頭、石臼挽きそば、手打ちのそば...
- (3) 動名詞：ジーンズを丸洗いする、運賃を値上げする、料理を味見する、車を水洗いする

しかし、先行研究で形容名詞と位置づけられたもの (= (2)) の中には、下記のように「-する」(およびその活用形) を伴って動名詞として用いられる例が見受けられるものがある。

---

<sup>1</sup> 先行研究では「形容詞的」(影山 1999) と呼ばれたり、「形容動詞」(由本 2009a) と呼ばれたりし、名前が様々であるが、本稿では影山 (1993)、上原 (2007) に従って、先行研究で「形容詞的」、「形容動詞」とされたものを一括して「形容名詞」と呼ぶこととする。

- (4) まずはそば湯で口を清めてからサービスされる二八そばは店内で手打ちしたもの。(BCCWJ)
- (5) 長ねぎは斜めに薄切りし、小松菜は2cm長さに切り、生しいたけは4つに切る。(BCCWJ)
- (6) ICH4にもLANコントローラの論理層が内蔵されているが、物理層コントローラを外付けする必要があるため、このRTL8100Bを採用する製品は多い。(BCCWJ)
- (7) 高濃度の塩水で小麦粉を手ごねし、一晚寝かせてから切るという江戸時代からの伝統的な技法で麺を打つ。(『まめたび名古屋』)
- (8) 博多に「ふじ本」という一流の割亭があるんですが、そこでは大きな鋼が手に入ったら、骨と縁側だけを炭火で塩焼きしてくれるそうです。(『もてなしの心：赤坂「津やま」東京の味と人情』)

形容名詞は動名詞とは異なり、一般的に「-する」をつけて動詞として用いられないが、なぜ(4)～(8)の動名詞用法が可能なのか、先行研究では論じられていない。以下、2節では動詞由来複合語の品詞に関する先行研究を概観する。3節では形容名詞の動名詞用法の有無について語彙調査の結果および動名詞用法のある形容名詞の特徴を明らかにする。その上、その用法の派生方向について論じる。4節では動名詞としても用いることができる形容名詞の品詞分類における再位置付けについて理論的意義を論じる。5節では結論を述べる。

## 2. 動詞由来複合語についての先行研究

動詞由来複合語の品詞を決定付ける要因について、杉岡(2002)は、内項(internal argument)との複合か付加詞(adjunct)との複合かによって決まると主張している。杉岡によると、「ゴミ拾い」のよ

うな内項複合語は項構造 (argument structure) で行われ、動作の名前を表す普通名詞であるのに対し、「水洗い」や「黒こげ」のような付加詞複合語は語彙概念構造 (lexical conceptual structure; LCS) で行われ、動名詞になるか形容名詞になるかは、前項が後項 (語基動詞) の語彙概念構造のどの述語を修飾するかによるという。例えば、下記 (9) の「水洗い」と (10) の「一人歩き」では、「水」と「一人」は後項の語彙概念構造における ACT という動作述語を修飾する「道具」または「様態」であるため、「水洗いする」「一人歩きする」というように「-する」をつけられる動名詞になる。それに対し、(10) の「黒こげ」では、「黒」は語基動詞の語彙概念構造の BE という状態述語を修飾する「結果状態」であるため、「黒こげの」や「黒こげだ」のように形容名詞として用いられる。

- (9) [道具—ACT ON y] 水洗い、ブラシ洗い、雑巾ぶき、平手打ち…  
 (10) [様態—ACT (ON y)] 一人歩き、立ち読み、早食い…  
 (11) [結果状態—BE] 黒こげ、赤むけ、びしょ濡れ、こま切れ…

杉岡 (2002 : 117-119 一部改変)

杉岡は、次の (12) のように動名詞にも形容名詞にもなる動詞由来複合語もあると指摘し、そして、そのような複合語は道具・様態を表す付加詞が作成・使役変化動詞と複合した場合に限られており、本来 ACT にある焦点を BE に焦点を移動させるという操作によるものだとしているが、形容名詞から動名詞への派生については指摘していない。

- (12) ペン書きする/ペン書きの答案  
 肉を炭火焼きする/炭火焼きの肉  
 (cf. 日焼けする/\*日焼けの肌、手洗いする/\*手洗いのセー

ター)

杉岡 (2002 : 121)

杉岡 (2002) の議論に対し、由本 (2009a) はそれを支持しつつ、項と結合する形容名詞的な動詞由来複合語の例も存在することを指摘している。そして、(13) のように、形容名詞的な動詞由来複合語は、語基の動詞の内項を叙述対象とし、その属性を表す要素であれば、項、付加詞に関わらないと主張している。

(13) 箱入りの本、泥まみれのシャツ、内住みの女中、水浸しの床、外付けのモデム、瓶詰めのジャム、この白菜は塩漬けど、この筆筒は漆塗りだ、表紙は革張りだ

(由本 2009a : 216)

さらに、葉 (2012、2013) は、下記 (14) の動詞由来複合語は杉岡の分析に基づけば、「様態—ACT (ON y)」のように分析され、動名詞になるはずであるが、実際には「-する」をつけて動名詞としてではなく、「朝採り野菜」、「石臼挽きそば」、「時間貸し駐車場」、「壁掛けテレビ」のように、モノの属性を示す形容名詞的に用いられていると指摘し、動詞由来複合語が動名詞になるか形容名詞になるかはその語形成を動機づける百科事典的知識の種類 (コトに関する知識なのかモノに関する知識なのか) によるのだと主張している。

(14) 旬摘み (茶)、春掘り (じゃがいも)、朝採り (野菜)、夏蒔き (野菜の種)、杵つき (餅)、窯焼き (ピザ)、せいろ蒸し (焼きそば)、包丁切り (うどん)、機械練り (石けん)、手揉み (茶)、手選り (小豆)、手延ばし (ナン)、手ごね (ハンバーグ)、湯捏ね (食パン)、石臼挽き (そば)、炭火焼き (鳥)、甕出し (紹興酒)、窯炒り (茶)、足こぎ (ボート)、

横挿し（電源コード）、生絞り（ジュース）、時間貸し（駐車場）、直火炊き（ご飯）、ガス炊き（ご飯）、後入れ（即席めん調味料）、週替わり（メニュー）、房採り（トマト）、3分づき（お米）、平置き（駐輪場）、家あげ（花火）、指定農園絞り（オリーブオイル）、二本出し（自動車のマフラー）、早ゆで（うどん）、深煎り（コーヒー）、細挽き（コーヒー）、堅あげ（ポテト）、前乗り（バス）、後降り（バス）、壁掛け（テレビ）、石置き（時計）、袋詰め（菓子）外付けハードディスク、背わた取りえび、皮むきピーナッツ、たまごかけご飯、骨付きソーセージ、紙切り包丁、缶入りプリン  
 （葉 2012: 150 ; 葉 2013: 24）

葉によれば、上記の複合語は被修飾語との結合度が高く、例えば、「窯焼き」は、通常パン類のみを修飾語とするため、その語形成はパンに関するフレーム（百科事典的知識）によって動機付けられたものと考えられる。パンは、一般的にオーブンで焼いて作るものであるため（デフォルト値）、「\*オーブン焼きパン」とは言わない。しかし、窯で焼いて作ったものはデフォルト値でないため、「窯焼きパン」で表現されるのである。また、「窯焼き」は「パン」というモノの属性を表すため、形容名詞になる。そして、動名詞用法と形容名詞用法の両方を有する動詞由来複合語は意味拡張ではなく、違う動機付けによって形成された同音異義語である。その証拠として、意味の違いの他に、項に相当する成分の選択も変わると挙げられている。

- (15) a. 二人乗り自転車/自動車（最大二人まで乗れる）
- b. \*自動車/自転車の二人乗り（二人乗っている）

葉（2013: 18）

形容名詞として用いられる時は（15a）に見るように自転車も自動



車も被修飾語として選択され得るのに対し、動名詞（相当）として用いられる時は（15b）に見るように自転車のみ選択され得る。

しかし、葉が形容名詞とした動詞由来複合語の中には（4）～（8）に見たように、「-する」を伴って動名詞として用いられている用例も見受けられるが、これについて葉は触れていない。

### 3. 派生（拡張）用法の有無及びそのメカニズム

#### 3.1. 語彙調査

本稿では2節で取り上げた葉（2012、2013）の48例<sup>2</sup>を対象に、国立国語研究所「KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス少納言」（BCCWJ）で検索を行い、検索結果全ての704件からさらに「24時間貸し出しますけど」や「その評価はそのままでその後入れられないんですよね」のような動詞由来複合語でない表現の8件を除外し、696件を得た。一部の形容名詞、例えば、「家あげ」や「指定農園絞り」などに検索結果が出なかったほど、用例数が少ないが、その多くは「朝採りのフレッシュなハーブ」、「窯焼きスフレ」、「包丁切りのコムギ粉のめん」、「機械練り石けん」、「手揉み茶」、「手ごねメンチカツ」、「石臼挽きの全粒粉」、「炭火焼き地鶏」、「骨付きのマトン」のように、修飾語として（形容名詞的に）あるいは属性を示すのに用いられている。また、検索結果の用例数の35%（246件）を占める「外付け（のHDD）」だけ見ても、修飾語<sup>3</sup>として用いられる例は196件<sup>4</sup>であるのに対し、直接「-する」をつけて動名詞として用いられる例は僅か5件であった<sup>5</sup>。これを含めた動名詞の用例の

<sup>2</sup> この48の語は葉（2012）で「新語」とされているように、必ずしも国語辞典類に掲載されるとは限らない。

<sup>3</sup> 連体形が「の」または「φ」（つまり、全体が一つの複合語）のものも含む。村木が主張した「規定機能のみの形容詞」に依拠し、連体形が「φ」の例も形容名詞とする。

<sup>4</sup> 「その他のハードディスクにインストール（外付けではなくではなく内蔵のもの）してもよいのでしょうか？」のような用法も形容名詞と見なせるが、検索結果では修飾機能が多かったため、ここでは修飾語の用例のみ見ることとする。

<sup>5</sup> 全体で僅か6件しかない「朝採り」も5件が上の「朝採りのフレッシュなハ

延べ語数が 19 件のみで、異なり語数も僅か 7 件であった。以下に動名詞用法があった用例を示す。

- (16) 石臼挽きしたハルユタカと小田原で栽培した自然のライ麦粉を自家製の天然酵母で発酵させた。(BCCWJ)
- (17) 新鮮な魚介類を直送し、越喜来産の活ホタテは約千枚を炭火焼きし盛況。(BCCWJ)
- (18) 深煎りした京碾きな粉入りジェノワーズ、豆乳のムースリートを重ね、フランボワーズを挟み、きな粉入りのビスキュイ・ジョコンドで側面を覆う。(BCCWJ)
- (19) テンキーを外付けしている場合はテンキーにランプ付いているでしょ？(BCCWJ)
- (20) ちなみに挿入口を上向にして設置（コントローラーの抜き差しを頻繁にするので、平置きはしませんでした。(BCCWJ)
- (21) そろそろ...わかりませんが。とにかく楽しみで...でも、明日の乗り継ぎが不安で。前乗りしてれば良かったかなあ？って今更ですが。寝よっ。(BCCWJ)
- (22) それを今に伝える同店の「水なす漬」は、大きななすが 1 個ずつ袋詰めされているのがうれしい。(BCCWJ)

BCCWJ では動名詞用法が見つからない形容名詞は (7)、(8) に見るように実際動名詞としても用いられたりするため、確認するために、Google Books を利用し、追加検証を行った。検索方法として、先述した葉 (2012、2013) から抽出した 48 語を「“窯焼きする”」のように、形容名詞の後ろに「-する」及び「-し」、「-して」、「-した」をつけ<sup>6</sup>、さらにその前後に「”」を入れ、絞り込み検索を行った。

---

ーブと」を含め、「朝採りの土付きラッキョウ」、「朝採り胡瓜」、「朝採り新鮮野菜」、「朝採りの松茸」のように修飾語として用いられている。

<sup>6</sup> 操作上「-し」一つで「-し」、「-して」、「-した」の 3 つの形態が表示されるはずであるが、実際には形の違いによって検索結果も変わってきたため、「-する」も入れて一語ごとに計 4 回検索を行った。また、仮定形の「-すれば」や「-

ヒット数と実際表示される例文の数は開きがあるが、ヒット数が 0 でも 1 例出た形容名詞を含め、全ての語が表示される例は 4 つの検索方法で延べ語数が 39 例以下にとどまっている。以下にその例文の一部を示す。

- (23) 店内で窯焼きする本格的なピッツァやパスタなどの料理をコース中心に提供する。(『ココミル 東京』)
- (24) 一概に市販のマルセイユ石けんがすべてよいともいえません。なかには、グリセリンを取り除いて機械練りする製法で作っているために、髪を洗ってみたら、けっこうばしばしだったものもありました。(『お風呂の愉しみ』)
- (25) 祖母の案は、一階全フロアーを事務所にして会社に貸し、テナント料をもらい、さらに、2 階の 3/4 程度を音楽ホールにして、音楽教室兼レンタルスペースにして時間貸しする、というものでした。(『西麻布バブルダイエット』)
- (26) 旬摘みした有機 JAS 認定の厳選茶葉を使用しております。  
([http://t-greens.com/img/tea\\_coffee.pdf](http://t-greens.com/img/tea_coffee.pdf))
- (27) 化学合成農薬・化学肥料を一切使用せずに栽培したもち米（ひめのもち）を使用し、添加物を一切加えずに杵つきしたお餅です。( <https://eu-ki.jp/service/product/434> )
- (28) 栗は、国産生栗を自家炊きしているので風味豊かです。  
( [https://www.kanazawarakuza.com/goodsdetail.php?gd\\_no=977](https://www.kanazawarakuza.com/goodsdetail.php?gd_no=977) )
- (29) 手ごねした牛肉のハンバーグは自慢の特製デミグラスソースで、さらに深い味わいに。(『るるぶドライブ信州ベストコース'13~'14』)

---

したら」、命令形の「-しろ」、「-せよ」なども存在するかもしれないが、仮定形と命令形を含め、使役形や受動形も上記の 3 つの形式と比べ有標であり、動詞によってはそれが欠如している。さらに、BCCWJ の検索結果にも「袋詰めされ」、「外付けされ」の異なり語数が 2 例（述べ語数が 4 例）のみだったため、今回は検索結果が出やすい「-する」、「-し」、「-して」、「-した」のみ検索を行った。

### 3.2. 動名詞用法のある形容名詞の特徴

本稿の考察対象とする 48 の動詞由来複合語は形容名詞であるため、「-する」が付かないのが一般的である。動名詞として用いられるというのはその形容名詞が性状を表すと同時に「行為・動作」をも表すということである。「骨付き」や「缶入り」のような語基が非意志的自動詞もしくは接尾辞化したものは動名詞への転用が難しいと思われるが、どのような形容名詞ならそれが可能なのか。

葉（2012）によれば、このような形容名詞は被修飾語に関する百科事典的知識によって動機づけられたものである。それに基づくと、例えば、「石臼挽き」は「そば」の作り方（クオリア構造（*qualia structure* ; Pustejovsky1995、影山 1999、吉村 2003）の産出的役割（*agentive role*）<sup>7</sup>相当）に関する百科事典的知識によって動機づけられたものである。産出的役割は行為・動作と関わっている役割であり、それを修飾する表現も特に「どのように作られた」のか、「何で作られた」のかについて表すものである。そして、その作り方によって違う結果がもたらされる。例えば、「石臼挽き」することによってそばがより香ばしくなる。つまり、動名詞として用いられ得る動詞由来複合語は形容名詞でありながら、意味的に使役変化動詞に近く、行為・動作を表すと考えられる<sup>8</sup>。(16)の「石臼挽き」、(17)の「炭火焼き」、(23)の「窯焼き」、(24)「機械練り」、(27)の「杵つき」、(29)の「手ごね」を見るとその語構成も「道具-V」となるものが多く、杉岡の「道具-V」は動名詞となるという主張を想起さ

<sup>7</sup> クオリア構造は本来生成意味論の理論であるが、本稿では吉村（2003）と同様に開いた知識の体系として捉えられると考える。また、和訳も吉村（2003）に基づいている。

<sup>8</sup> 動名詞の動詞由来複合語（内項複合）について考察を行った Yumoto（2010）は、「砂糖がけ」が単に砂糖をかけるという意味ではなく、砂糖衣でコーティングするという意味であり、使役変化動詞に近いと説明している。

<sup>9</sup> これらは動名詞ではなく、形容名詞であることは動名詞としての用例数が少ないところから伺える。例えば、3.1の手順で Google Books を検索したところ、「手作りする」は 7,180 件あったのに対し、「手選りする」は僅か 1 件である。

せる。

(延べ語数が) ごく僅かであるが、以下に用例を挙げておく。

(30) 近所のスーパーでたまに買うせいろ蒸しした焼きそばの麺を使って、当然、焼きそばを作りました。

([http://kamekichi.cocolog-nifty.com/sake\\_to\\_ryouri/2004/12/post\\_21.html](http://kamekichi.cocolog-nifty.com/sake_to_ryouri/2004/12/post_21.html))

(31) 手揉みした縮れ麺もスープとの絡みがいい。(『ラーメンマップ宮城・山形・福島』)

(32) まあなんとか力づくで手選りしたとしても問題は、量です。

([https://www.hayashisanchi.co.jp/koyo/2016/post\\_1985.html](https://www.hayashisanchi.co.jp/koyo/2016/post_1985.html))

(33) 「ぺったん」とはうち職人が生地を一つひとつ手延ばしした平麺のこと。

([http://www.otowa.ne.jp/image/B3\\_chirashi\\_00.pdf](http://www.otowa.ne.jp/image/B3_chirashi_00.pdf))

また、(18)の「深煎り」、(20)の「平置き」、(25)の「時間貸し」などは「深煎り」を除き、語基が動作動詞であるため、使役変化動詞のような含意がなく、産出的役割も修飾できない。しかし、これらは「様態-V」と解釈でき、どのように行為を行うかを示す点で、動名詞と同じ特徴を有するため、動名詞に転用され得ると考えられる。

次に、(26)の「旬摘み」のような、「時間-V」と分析できるものも(延べ語数が)少ないが、Google Booksには以下の用例があった。

(34) ながいもと同様に、秋掘りと春掘りがあり、特に越冬してから春掘りしたごぼうは香りが高いと言われています。

([http://www.tohoku.meti.go.jp/s\\_cyusyo/chiikisigen/topics/pdf/170221.pdf](http://www.tohoku.meti.go.jp/s_cyusyo/chiikisigen/topics/pdf/170221.pdf))

(35) 伝統の和菓子にはみそまんじゅうや名物梅衣、栗蒸し羊羹

などがあり、特に栗蒸し羊羹は森町の農家が朝採りした栗を毎朝手剥きして作っている。(『SHIZUOKA グルメガイド ふじのくに食の都づくり仕事人 2015』)

- (36) 他に夏蒔きしたミニトマトと茶豆は生育途中で引退してしまいましたが、それに比べたらこのインゲンはピンとしています。(http://suusei.ame-zaiku.com/v/m/memo102.html)

杉岡は「時間-V」と分析できる動詞由来複合語については触れていないが、このような動詞由来複合語も「いつできた」のかという意味を表しており、被修飾語の産出的役割を修飾している。つまり、動作の部分を修飾しているため、動名詞に転用されやすいと考えられる。

さらに、内項複合の動詞由来複合語においても、動名詞用法が見られた。

- (37) ご覧の尾付きムキエビは、約 13g サイズを弊社にて皮むき・背わた取りした手造り商品で、1pc3,500 円。

(http://www.daimatsusuisan.com/nikki/cat73/post\_31.html)

- (38) 六方に皮むきしたさといもを、塩をつけてもんで洗い流してぬめりを取り、まずは下ゆで。(『子どもの「おいしい!」を育てる』)

「背わた取り」、「皮むき」の前項である「皮」、「背わた」は本来「むく」、「取る」の内項に相当し、杉岡の分析によると、「ゴミ拾い(をする)」と同じように普通名詞になるはずである。しかし、これらは葉(2012)の分析に基づくと、「皮むき」は「ピーナッツ」、「背わた取り」は「えび」に関する百科事典的知識に動機づけられた形容名詞である。「ピーナッツ」、「えび」は一般的に、つまりデフォルト値は「皮付き」、「背わた付き」の状態の販売するためである。

本論文の検索で検出した例は(37)、(38)のように直接目的語(内

項、ヲ格)を取っていないが、背わた取りした、皮むきしたものはそれぞれ「えび」と「さといも」であることがわかる。このような形容名詞は Yumoto (2010) が動名詞として位置付けている「あく抜き」に似ている。Yumoto (同:2400) は、例えば「山菜をあく抜きする」のように、あくは本来山菜の一部であるが、あくを抜くことによって、山菜がおいしくなると述べ、つまり、「あく抜きする」は山菜をおいしくする使役変化動詞であると主張している。その主張に基づくと、えびは「背わた取り」することによっておいしくなり、さといもも「皮むき」することによって食べやすくなる点で動名詞の「あく抜き」と似ているため、動名詞に転用され得ると考えられる。特に(38)の「皮むき」は「六方に」という結果を示す成分と共起していることから、使役変化動詞として機能していると言える。

以上の考察をもとに、動名詞としての派生用法が観察される動詞由来複合語とそうでない動詞由来複合語の特徴を以下にまとめる。

- (39) 1 前項が様態や方法、時間など、動詞の意味構造の動作を修飾するもの
- 2 形容名詞として用いられている時、被修飾語のクオリア構造の産出的役割を修飾する
- 3 意味的に使役変化動詞に近い

### 3.3. 拡張の方向

2節では動詞由来複合語について先行研究の議論を概観した。

杉岡(2002)は動名詞にも形容名詞にもなる動詞由来複合語は道具・様態を表す付加詞が作成・使役変化動詞と複合した場合に限定されており、「結果事象への焦点の移動」という操作によるものだとしている。その分析は動名詞から形容詞的への派生を想定した分析であり、例えば、「炭火焼き」はそれに基づく動名詞(例:炭火焼きする)が基本で、そこから形容名詞の用法(例:炭火焼きの肉)

が派生されるということになる。

野田（2011）は動詞由来複合語の多義性をメタファー、シネクトギー、メトニミーの三種の比喩に基づいた拡張によるものだと三つのカテゴリーを提案している。それによるとカテゴリーⅠは「歯磨き」「水洗い」のような動作を示すもので、動詞に最も近いとされている<sup>10</sup>。また、カテゴリーⅡは「物知り」「金持ち」のような属性を示すもので、形容（名）詞に近いとされている。さらに、カテゴリーⅢは「絵描き」「野菜炒め」「油揚げ」のような実際目に見えたり手に持ったりすることができるもので、普通名詞だとされている。

野田の主張に基づくと、例えば、カテゴリーⅠに分類された「歯磨き」は「歯磨き」というコトも、「歯磨き（粉）」というモノも意味し得るため、カテゴリーⅠからカテゴリーⅢへの拡張が認められる。また、カテゴリーⅡに分類された「金持ち」も「金持ちの人」のように属性を表したり「金持ちがいる」のように人を表したりできるため、カテゴリーⅡからカテゴリーⅢへの拡張が認められる。しかし、その拡張の方向は一方向的だと考えられており、形容名詞（野田論文のカテゴリーⅡ相当）から動名詞（野田論文のカテゴリーⅠ相当）への拡張が指摘されていない。しかし、ここまでの考察で明らかになったように、形容名詞も動名詞への拡張・派生も見られる。

つまり、先行研究において、形容名詞に分類される「窯焼きの（ピザ）」などに対し、「窯焼きする」のような動名詞としての用法は派生用法であり、その派生用法は（行為・動作という）上記の（39）の条件によって動機づけられたものだということである。また、動名詞としての派生用法は一種の逆形成<sup>11</sup>（島村 1990）であると考えられる。これまで逆形成は通常でない語形成法だと考えられてきた

<sup>10</sup> しかし、動名詞と（デキコトを意味する）普通名詞の区別はされていない。

<sup>11</sup> 「窯焼き」は逆形成の他に、先行研究で指摘された派生方向と同じ形容名詞から名詞へ拡張した例も観察される。

i. 窯焼きを手軽に味わえます

(<https://tabelog.com/tokyo/A1301/A130101/13022226/dtlrvwlst/B30296265/?locale=cn>)



(由本 2009b など) が、少なくとも本稿の考察対象に限って言えば、(39) の特徴を持つ形容名詞的動詞由来複合語は、逆形成（もしくは動名詞としての拡張・派生用法）が起こり得ると考えられる<sup>12</sup>。

#### 4. 品詞体系における位置付け

形容名詞の動詞由来複合語の動名詞としての派生用法およびそのメカニズムを明らかにした。プロトタイプ性の観点から見ると、動名詞への派生用法がある形容名詞は形容名詞としてより非典型的（周縁的）であると思われる。

日本語の品詞カテゴリーの認定に関して様々な議論があるが、本稿では品詞間の連続性を認める立場から日本語の主要品詞を捉えている上原（2007）の分類に従う。上原（2007）は、Croft（1991）の理論に基づき、動詞、名詞、形容詞の意味及びその文内機能の有標性から品詞分類を図1のように提案している。上原によれば、日本語の主要品詞は形態に見られる有標性の差から、英語のように動詞、名詞、形容詞の3つではなく、活用語、非活用語の2つである。そして、動詞と形容詞、名詞はその下位分類となる。非活用語はさらに（普通）名詞と形容名詞に分けることができ、そしてサ変名詞（動名詞）は名詞の下位分類にすることができる。

---

<sup>12</sup> 寺村（1982）と上原（2007）は、形容名詞という品詞カテゴリーに入っている成員は均一ではないと指摘している。上原（2007: 136-137）の連体形に対する指摘を例に取ってみると、「健康な人」と「健康の維持」に見るように、「な」と「の」によって意味が変わるものから「特別な/の処方」に見るように意味の差がないものまで様々ある。

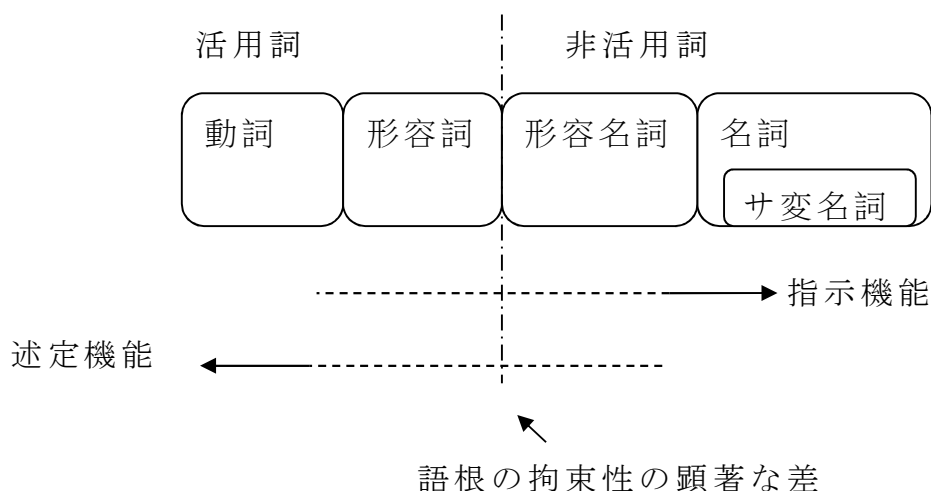


図1 上原（2007：114）の有標性から見た日本語の主要品詞構造

上原（2007）の分類では図2に見るように、形容名詞に下位分類が提案されていないが、本稿で明らかになったように、動名詞としての派生用法を持つ形容名詞もあることを考えると、形容名詞もさらに下位分類することが可能である。名詞から変化してきた「健康」、「真剣」はモノを表す普通名詞に近似しており、「健康が一番大事だ」のように格助詞を取って文の補語としても用いられる。それに対し、「窯焼き」は動名詞としての用法が見られるため、僅かに動名詞に近づきつつあると言えよう。また、これによって、動名詞と形容名詞の間にも図2のように連続性があると捉え直すことができる。

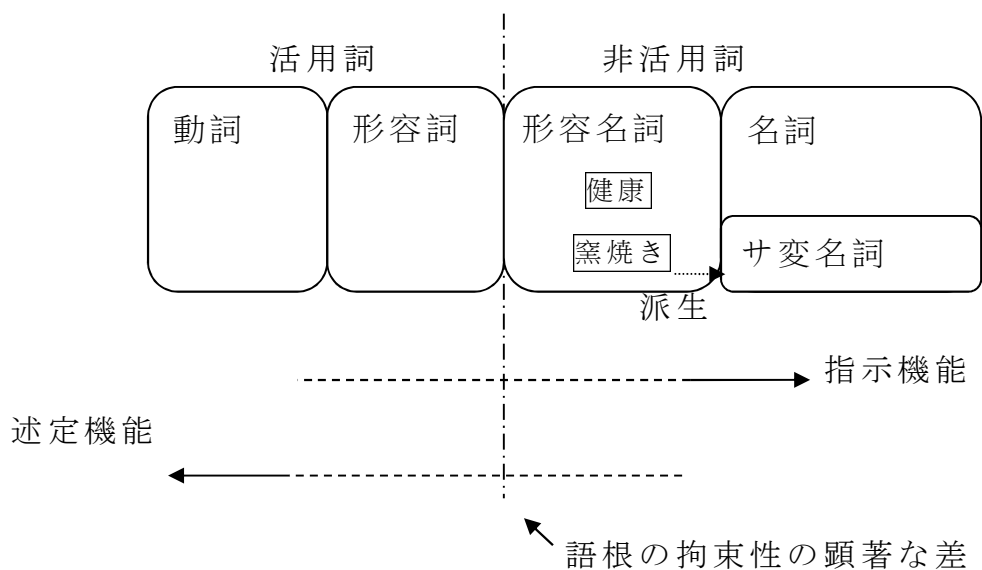


図2 上原（2007）の提案をもとに修正した日本語の主要品詞構造

## 5. 結論

本稿では「窯焼き (のピザ)」のような先行研究では形容名詞として扱われている動詞由来複合語の動名詞の派生用法について考察を行い、動名詞の派生用法のある形容名詞の特徴として以下の三点を明らかにした：一、被修飾語のクオリア構造の産出的役割を修飾する、二、語構成が「道具-V」または「様態-V」、「時間-V」と分析できる、三、意味が使役変化動詞に近い。例外と思われがちなこれらの例に説明を加えることによって、形容名詞から動名詞への派生が示唆され、また、日本語における（形容名詞の下位分類としての）「動作性形容名詞」という品詞カテゴリーが示唆される。動名詞としての用法が見られる形容名詞はそうでない形容名詞と区別されるべきものである。

本稿では葉（2012、2013）の例のみ扱ったが、今後の課題として、より多くの形容名詞的な動詞由来複合語を考察し、語構成または意味上の特徴が同じの他の動詞由来複合語も同様に動名詞としての派生用法があるか検証したい。

## 付記

本稿は、106年度科技部専題研究計画（新進人員研究計画）『日語主要詞類範疇非典型成員之研究』（106-2410-H-004-184-）の補助金を受けた研究の一部である。

## 参考文献

- 浅尾仁彦（2009）「用法基盤モデルに基づいた複合語形成の生産的パターンの抽出」『言語処理学会第15年次大会発表論文集』
- 上原聡（2002）「日本語における語彙のカテゴリー化」『認知言語学Ⅱカテゴリー化』、東京：東京大学出版会
- 上原聡（2004）「何故プロトタイプ構造か—日本語の『形容動詞』に

- 見るプロトタイプ構造形成の歴史的考察—」『認知言語学論考』  
No.3、東京：ひつじ書房
- 上原聡（2007）「認知語形成論」『音韻・形態のメカニズム』研究社.
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』、東京：ひつじ書房
- 影山太郎（1999）『形態論と意味』、東京：くろしお出版
- 影山太郎・由本陽子（2009）「名詞を含む複合形容詞」『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』、東京：大修館書店
- 影山太郎（2011）「モノ名詞とデキゴト名詞」『日英対照 名詞の意味と構文』、東京：大修館書店
- 島村礼子（1990）『英語の語形成とその生産性』、東京：リーベル出版
- 杉岡洋子（2002）「複数のレベルにまたがる語形成」『語の仕組みと語形成』、東京：研究社
- 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味 I』、東京：くろしお出版
- 西尾寅弥（1988）『現代語彙の研究』、東京：明治書院
- 野田大志（2011）『現代日本語における複合語の意味形成—構文理論によるアプローチ』名古屋大学大学院博士学位論文
- 早瀬尚子・堀田優子（2005）『認知文法の新展開 カテゴリー化と用法基盤モデル』、東京：研究社
- 村木新次郎（1998）「名詞と形容詞の境界」『月刊言語』27巻3号
- 村木新次郎（2002）「第三形容詞とその形態論」『国語論究第10集—現代日本語の文法研究』、東京：明治書院
- 由本陽子（2009a）「複合形容詞に見る語形成のモジュール性」『語彙の意味と文法』、東京：くろしお出版
- 由本陽子（2009b）「名詞を含む複合形容詞」『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』、東京：大修館書店
- 葉秉杰（2012）「用法基盤モデルによる[[X]動詞連用形]複合語の生産性に関する考察—付加詞複合語と解釈されるものを例に—」『日本語文法』12巻2号

葉秉杰 (2013) 「[[X]動詞連用形複合語の意味用法に関する一考察—  
付加詞複合語と解釈されるものを中心に—」『認知言語学論文集』  
13 卷

吉村公宏 (2003) 「認知語彙論」『認知音韻・形態論』、東京：大修館  
書店

Croft, W. 1991. *Syntactic Categories and Grammatical Relations: The  
Cognitive Organization of Information*. Chicago: University of  
Chicago Press.

Langacker, Ronald W. 1988. A View of Linguistic Semantics. In Brygida,  
Rudzka-Otyn (ed.), *Topics in Cognitive Linguistics*. Amsterdam:  
John Benjamins. 49-90.

Pustejovsky, J. 1995. *The Generative Lexicon*. Cambridge MA: MIT  
Press.

Yumoto, Yoko 2010. Variation in N-V Compound Verbs in Japanese.  
*Lingua* 120(10): 2388-2404.

## コーパス

国立国語研究所 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

グーグルブックス <https://books.google.co.jp>

